

◆ もっと知ろう、世界遺産 第4弾 ◆

稲葉信子さん講演会「世界文化遺産と鎌倉」

平成23年11月13日(日)午後、推進協議会主催の講演会「世界文化遺産と鎌倉」が鎌倉商工会議所で開催されました。講師は筑波大学大学院世界遺産専攻教授の稲葉信子さんです。稲葉さんは、日本が世界遺産条約に批准した当時から世界文化遺産とその保全・修復等について関わってこられた日本の第一人者で、鎌倉にも推薦書作成委員として関わっていただいています。以下、講演要旨をご紹介します。



なお当日は講演前に、平成22年度「世界遺産登録に向けての中学生作文コンクール」最優秀作品の朗読や、県立鎌倉高校の生徒による「かまくら学」の研究成果発表もあわせて行われました。

講演要旨

40周年を迎えたユネスコ世界遺産条約

11月7日～9日にユネスコの世界遺産条約の総会がパリで開催された。2011年は世界遺産条約締結40周年の年であり、この条約が世界の自然と文化の保全や発展に寄与していたのかどうかを考える1年間がスタートした。世界各国で世界遺産に関するシンポジウムや会議が開かれるが、その締めくくりとして2012年11月に、40周年記念行事を京都で開催する予定である。

文化と自然の両方を同時に扱うのが世界遺産条約の特徴。日本から推薦される世界遺産には、必ず自然との共存を織り込まれている。砂漠や草原の中の他国の世界遺産とは全く違う。つまり日本は自然と対立する文化ではない。それは日本が仏教を取り入れる前の、元々信仰していた自然信仰あるいは修験道から来ていると思われる。

世界遺産は歴史のジグソーパズル

世界遺産の価値が条約で定義づけられているが、英語を直訳すると非常にわかりにくいので私なりにかみ砕いた表現をすると、『地球という一つの自然と、そこに住む70億の人々の、歴史のジグソーパズル』ということである。このパズルは未完成であり、空いているところをどう埋めていくかを考えるのがユネスコ世界遺産委員会の役割。各遺産の登録申請書は、パズルの空いている部分を埋めるための一つの提案。世界遺産に優劣はつけられないし、価値は無限にある。そしてこのジグソー

パズル自体が、常に拡大し変化している。その中で鎌倉はどのピースを埋めていくかを考えなければならない。

1992年までの10年間、世界遺産の審査を行ってきたフランス人の専門家が、10年間で感じたことを書いた文章の中で、「これまで石や煉瓦でできた遺跡の保全を考えてきたが、日本が世界遺産条約に批准したことで一つの転機を迎えた。木造寺院を持つ日本が加わったことで、石や煉瓦をそのまま保存するという考え方を改める時期が来た」と言っていた。このように日本は、パズルを拡大させる役割も果たしてきた。

世界文化遺産・鎌倉のメッセージは何か

海外の人が見た鎌倉の第一印象はどういうものかということも重要になる。審査をするのは日本人ではないため、日本人ならわかることも、外国の人に理解してもらえないとは限らない。「サムライ」という言葉を使うかどうか議論してきたし、他にもいろいろなキーワードが出てきたが、「武家」という言葉を外して鎌倉は語れない。鎌倉は武家の文化的伝統の発祥地であるし、それが今の日本にも息づいている。禅や茶や流鏑馬という文化についても議論したが、これらは何かから派生したものであって、その骨格となるものは何かが重要である。武士が築いた鎌倉の都市は、他の世界遺産の都市に負けない特色を説明できるのか、という議論もした。「武家政権発足の地としての鎌倉、武家の文化的伝統を伝え支える鎌倉の文化とは何か」というと、最終的に、政権のあり方から都市のつくりまで、武家社会において育まれた文化的諸相の総体として解釈をすることになった。

鎌倉の文化を考える際に、お寺や神社や切通をまとめて一つの世界遺産として推薦することになったが、それらを武家文化の総体としてまとめられるバスケットが必要だった。それが最終的に鎌倉の三方を囲む山になった。鎌倉の遺産の核となる寺社はすべて山に囲まれているため、山と一体として推薦していくことが決まった。

世界遺産になっている都市のほとんどが、城壁に囲まれている。その一つがエルサレム。現在はエルサレムの周辺はイスラエルが街を築き実質支配している。しかも昔とはかなり姿が変わり、近代化している。鎌倉の市街地が近代化してしまっているから世界遺産として認められない、ということにはならないであろう。

鎌倉の場合は城壁のかわりに山に囲まれている。そして中央に広場があるわけではなく、谷の中に寺院や武士の住まいがある。これが最大の特徴ではないかと感じている。